

【心理学科心理学専攻（英語）解答例と出題意図】

1 解答例と出題意図

【出題意図】

本問題は、発達心理学、パーソナリティ心理学、認知心理学、神経心理学などの心理学の下位分野に関連するトピックであるエフォートフル・コントロールに関する英文文献を題材として作成したものである。本問題の読解・解答を通して、心理学研究科博士前期課程において研究活動を遂行するために必要な英文読解力と、それを基盤とした論理的思考力および日本語表現能力を評価することを目的としている。

問 1

【出題意図】

英文を正確に読解し、直前の文脈を踏まえて、満足遅延能力と最も関連する記述を選択肢の中から識別できるかを評価している。

【解答】 e

問 2

【出題意図】 アカデミック・ライティングにおける文章構造を踏まえ、エフォートフル・コントロールの定義内容を的確に把握できるかを評価している。

【解答例】

エフォートフル・コントロールとは、優勢な反応を抑制する能力と非優勢な反応を活性化する能力に加え、計画やエラーの検出を含む、実行の注意の効率性を指す。

問 3

【出題意図】

定義に続いて説明されているエフォートフル・コントロールの測定方法に関する記述について、その内容を正確に把握できているかを評価している。

【解答例】

エフォートフル・コントロールは、親や教師による評価や様々な行動測定によって測定されることが多い。行動測定には、満足遅延能力、異なる命令に基づく類似行動の抑制と活性化、ならびに注意の管理や行動の抑制を含む実行機能スキルの評価が含まれる。

問 4

【出題意図】

英文全体の内容を迅速に把握し、各選択肢と対応する箇所を識別した上で、その正誤を判断する能力を評価している。

【解答】 a : ×、 b : ○、 c : ○、 d : ×、 e : ×

2 解答例と出題意図

問 1 解答例

これが、マインドフルネスが、呼吸に注意を向けて瞑想すること、ゆっくり歩くこと、あるいは自分の身体の感覚や周囲の音に注意を向けることといった実践を含んでいる理由である。こうした実践によって、私たちは、物事を変えようとする習慣から、物事があるがままに受け止める（あるがままの物事とともにある）という習慣へと、自らのあり方を切り替えることができるのである。

問 2 解答例

不安なとき、人は恐ろしいものを回避・逃避しようとするが、それはかえって不安を高めてしまう。本文では対処法として、回避するのではなく、自分が恐れている対象に対して、好奇心をもって穏やかに近づくことを勧めている。具体的には、対立する状況から必死に逃げようとするのではなく、立ち止まって（速度を緩めて）、いま起きていることすべてにより十分に気づくようにする。そうすることで、その状況にどのように関わるかという選択肢が増える。その際、自分自身と、関係する他者の双方への共感をもって臨むことが大切である。

問 3 解答例

マインドフルネスを、新たな西洋の（非仏教的な）聴衆に伝える際には課題がある。その理由は、もともとの仏教理論の重要な側面を薄めたり失わせたりしないようにしつつ、同時にそれを非仏教徒にも理解可能で説明しやすいものにする方法を見出すという、難しいバランスを取らなければならないからである。

【出題意図】

本問は、臨床心理学の主要なアプローチの一つであるマインドフルネスに関する英文を題材とし、専門的な英語文献を正確に読解し、その内容を日本語で的確に説明する力を問うものである。問1では、呼吸瞑想や歩行瞑想といった具体的技法と、「変えようとする」態度から「あるがままにともにある」態度への転換という中核概念を、正しく訳出できるかを評価する。問2は、不安に対する回避・逃避がかえって症状を維持・増悪させるという臨床的に重要な機制を理解したうえで、回避ではなく好奇心と優しさをもって接近するという対処法を読み取れるかを問う。問3では、仏教由来の理論を希薄化させずに西洋の非仏教的文脈へ橋渡しすることの難しさを把握させ、技法の文化的背景への感受性を確認する。あわせて、症状を個人の内界のみに還元せず、貧困や差別などの社会文化的現実を踏まえる生物心理社会的視点の重要性に気づかせることをねらいとしている。